

---

# 伊達政宗～陸奥を駆けた漢～〔改訂版?〕

竹中奏華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

伊達政宗〜陸奥を駆けた漢〜「改訂版？」

### 【Nコード】

N2643F

### 【作者名】

竹中奏華

### 【あらすじ】

戦国時代生まれるのが早かったら天下人になれたであろうといわれる伊達政宗について描く

## 人物紹介

### 人物紹介

伊達政宗（通称：藤次郎）伊達輝宗の嫡男。母は義姫

片倉景綱（通称：小十郎）伊達政宗の家臣

伊達輝宗 伊達家十六代当主

義姫 最上義守の娘で義光の妹

## エピソード（前書き）

伊達政宗公についてゆっくりですが書いていきます。あつ因みに此の小説は前に書いていたものを修正したものです

## エピソード

三人の少年が馬を駆っている。

「若〜！若〜！」と言う声が聞こえてくる。

「あっ」といって先頭を駆ける子が驚いた顔で振り返った。この子の名は梵天丸という。陸奥の名門伊達

家の16代当主伊達輝宗と勇将と名高い最上義光の妹で輝宗の正室である義姫の嫡子である。

その後の藤次郎政宗である。

「若！お出かけになるときは小十郎に一言言つてからというたでありましょうに・・・今度このようなことをなされた場合はお灸をすえねばなりたせぬな」

と、追いついてきた青年が怒ったふうにいる。しかし、目は怒っていない。

「すまぬ。小十郎」と申し訳なさそうに謝った。しかしうれしそうに顔をしている。この青年が来たのが嬉しいようだ。梵天丸が慕っている事が分かる。この青年は後に伊達家の軍師として名をはせる片倉小十郎景綱である。

「いえ。それより若何処へ向かっておられたのですか？」

と怒った顔を解き いや、解けてしまったというほうが正しいか・

・ 微笑み小十郎が問う。

「すこし運動をしようと思つて……」とぼそつと言つた。それを見て笑い小十郎は言つた。

「はつはつはつ。若らしいですな。」

「ところで殿が若を呼んでおられたので、早く帰つたほうがよろしいかと……」と急に背を延ばし真面目に言つた。（やはり、主君の命にはとても忠実である）

「あい分かつた。すぐに参る。」とちよつと残念そうに言つて城に引き返す。

こちらも親に忠実である。

梵天丸の後に従つていた二人少年も引き返す。ちなみにこの二人の少年は後の伊達成実と原

田左馬助宗時である。景綱、成実、宗時の三人は梵天丸の小姓として、友として輝宗が付けた

者である。殿を待たせるわけには行かないと言ふことで急いで主従四人は急ぎながらも楽しそうに城に帰つていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2643f/>

---

伊達政宗～陸奥を駆けた漢～〔改訂版？〕

2010年10月11日14時00分発行